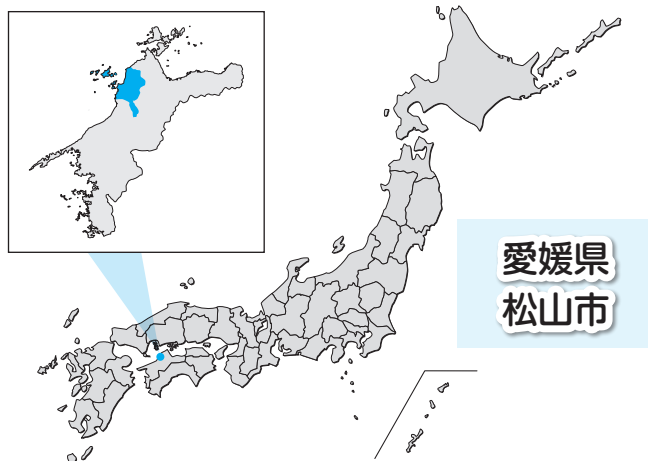


私のふるさと



日向町
やくしじこうや
薬師寺晃哉 さん



愛媛県
松山市

私のふるさと松山市は、愛媛県の中央に位置し、瀬戸内海と山に囲まれています。気候は温暖で、雨も雪も少なく、台風の通過も少ない穏やかな街です。海、山、島、街などの多様な生活スタイルも、新鮮な海の幸・山の幸も楽しめます。さらに、松山城や道後温泉など、歴史的にも文化的にも素晴らしい建造物があり、車で30分以内でいろいろなところに行けるコンパクトシティとなっています。

私の妻が須賀川市出身なので、追い掛ける形で移住してきました。福島県は東日本大震災の原発事故のイメージが強かったのですが、半年間住み、復興状況や周りの方々が震災の苦しみを乗り越えて前向きに生活している姿を見て、イメージが180度変わりました。街の発展具合や自然に囲まれているのも松山市と似ていて、周りの方々も温かく歓迎してくださり、キュウリやモモなどの特産品やラーメンなど、おいしい物もたくさんあり、住みやすいだけでなく住んでいてとても楽しい街だなと思いました。

これからは、花火大会や松明あかしなど様々な行事に参加して、この素晴らしい街と深く関わっていこうと思います。



サークルとわたし



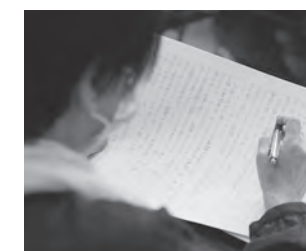
須賀川古文書研究会

代表者 小針喜夫
会 員 19人
発足時期 昭和50年代後半
連絡先 ☎(73)4722
活動日 毎月第3木曜日
活動場所 博物館

私たち須賀川古文書研究会は、毎月1回勉強会を開催し、古文書の解読やその歴史を研究しています。これまで結城文書(相楽家旧蔵)や市内の庄屋・地方文書、幕末偉人の文書、御成敗式目など、時代にとらわれず中・近世の様々な古文書を読んできました。現在は、博物館友の会や須賀川史談会と協力し、古文書の整理なども行っています。

古文書というと「難しそう」「読めない」というイメージがありますが、触れていくうちに読める文字がパズルのように見分かる楽しさがあり、1文字でも読めると「どんな文章が書いてあるのか、もっと読みたい!」と思わせてくれます。

古文書を読むのは何歳からでも始められます。ぜひ私たちと一緒に、文字を通して「いにしえの思い」に触れてみませんか。



tette 情報



tetteでは、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、講座などを行っています。参加する際は、感染防止にご協力をお願いします。なお、感染状況によっては、中止または延期になる可能性があります。詳しくは、tetteホームページでご確認ください。



tetteホームページ



TETTE.SUKAGAWA
tetteInstagram

■ tetteスクールなど

市民交流センター☎(73)4407

tetteスクールファミリー「せっけんフェルトづくり」
11月23日(火・祝) 午前10時～11時30分 ※事前申込
tetteスクールジュニア「日本むかしあそび」
11月28日(日) 午前10時～正午 ※事前申込
tetteスクールファミリー「冬のプラネタリウム」
12月4日(土) 午前10時～11時30分 ※事前申込

第6回サポセンフェスティバル

11月27日(土)～30日(火)
サポートセンター登録団体の活動をパネル展示や動画で紹介
※28日(日)のみ物販を開催

■ tette動画を配信中

生活に役立つ情報をはじめ、様々な動画をtette公式ホームページやInstagramで配信しています。ぜひご覧ください。



「トレーニング」
11月配信予定

■ こどもセンターだより

こどもセンター☎(76)6687

子育て支援講座「リズム遊び」
11月18日(木) 午前10時～11時 ※事前申込
親子イベント「恐竜ひもとおしであそぼう」
11月19日(金)～21日(日)に制作セットを配布
※事前申込(先着15組)
子育て支援講座「離乳食等相談会」
11月25日(木) 午前10時～11時 ※事前申込

■ 図書館だより

中央図書館☎(75)3309

おひざにだっこのおはなし広場
(おはなしの会ラ・ポム)
11月17日(水) 午前11時
※自由参加(定員30人)
こども読み聞かせ会(読み聞かせの会ポケット)
11月20日(土)・27日(土) 午後2時
※自由参加(定員20人)



週に2～3回、街にやってきた大人気の紙芝居

手書きの絵ならではのぬくもりは今と変わりますが、紙芝居師が時代劇や悲劇、怪談物語などを語るときの表現力豊かな話術も魅力でした。
先生や親の目がない子どもたちだけの時間は、貴重な娯楽の一つでした。

博物館
☎(75)3239

ふるさとの遺産

須賀川アルバム No.327
- 昭和の記録写真から -

昔懐かしい街頭紙芝居 (昭和40年代)

大きな箱を自転車やバイクの荷台に乗せて、街角や空き地にやってきた街頭紙芝居。昭和の時代には、どこでも見られた懐かしい風景です。今も図書館や学校で紙芝居に触れる機会がありますが、街頭紙芝居はひと味違います。拍子木や太鼓の大きな音に合わせて集まった子どもたちは、紙芝居師から水あめやソース煎餅などの駄菓子を買い、お菓子を食べながら物語の世界に夢中でした。